



南部町立南部中学校 学校だより 第22号

千一ム南部中

令和5年2月27日(月)
校長 望月和彦

3年生を送る会



2月22日(水) 生徒会主催の「3年生を送る会」が行われました。感染症予防のために今年度も1・2年生は卒業式に出席することはできません。この3年生を送る会が、学び舎を巣立っていく3年生に1・2年生全員が気持ちを伝える最後の場になりました。

テープの鎖や3年生の人型に切り抜かれた掲示物などで飾り付けられた体育館で、送る会は始まりました。オープニングでは、生徒会事務局が、クイズあり、マジックありのユーモアたっぷりのコントで3年生を笑顔にさせてくれました。途中のビデオレターには、1・2年生の時にお世話になった佐野佳那実先生、高橋黎先生も登場し、卒業する3年生への温かいメッセージがありました。そして、3年間を振り返る思い出のスライド上映。入学した頃のかわいらしい写真、エネルギーを燃やした輝城祭、気持ちを一つにしてハーモニーづくりに取り組んだ音楽発表会、そして1・2年生とともに目標目指して精一杯頑張った部活動な



ど、懐かしい写真を3年生は思い出をかみしめるように見入っていました。スライドが終わると1・2年生全員がステージの前に並び、3年生との思い出や感謝の気持ちを「贈る言葉」として伝えました。「3年生は僕たちの憧れでした」「3年生との思い出は私たちの宝物です」「3年生が残してくれた伝統を私たちが守っていきます」「南部中での思い出を力にして、新しい進路でも活躍してください。在校生一同、心から応援しています」そして、ウッドデッキでの応援。応援委員が中心となって昼休みや放課後を使って一生懸命練習してきたエールを3年生に届けました。ピンと張り詰めた空気の中で、太鼓の響きに合わせた演舞と掛け声、全員の拍手で、見事な応援でした。体育館に戻ると、記念品が3年生に渡されました。今年度の記念品は1・2年生が心を込めてつく



↑ ハーバリウム

った「ハーバリウム」(色鮮やかな花が瓶の中に入り、校章がついた素敵な置物)です。3年生は「1・2年生に私たちは何かを残したい、伝えたいという思いを持って、中学校生活を送ってきました。今まで本当にありがとう。皆さんの頑張りに期待しています。」と1・2年生に感謝の気持ちを伝え、最後に校歌を合唱してくれました。久しぶりに聴く校歌の合唱に、私は心がぼかぼか温まるのを感じました。素敵な「生徒主体の卒業式」になりました。

3学年授業参観「道徳」&学年PTA

2月8日(水)には3学年の授業参観を行いました。振り返ってみると、新型コロナウイルスのために、狭い普通教室での授業参観はこの3年間一度も実施できず、学期ごとの学校開放期間に都合のつく保護者の方のみに授業を参観していただいたということになります。今回も2年前と同じように、3Aはランチルームで、3Bは蒙軒ホールで「道徳」の授業を見ていただきました。今回の授業の教材は「手品師」という読み物で、小学校6年生の教科書にも掲載されている教材です。「腕はいいけれど売れない手品師が男の子に手品を見せる約束をした後、友人から同じ日に大舞台のマジックショーへの出演の依頼を受ける。手品師はマジックショーへの出演を受けるか、男の子との約束を守るかの判断を迫られ、悩



む。」というあらすじです。小学校の時に学んだことを、もう一度学びなおしたら、どんなことを感じたり、考えたりするかという授業でした。授業の中では「誠実・責任とは何か」「この場合、あなたならどうするか」を生徒たちに考えさせ、意見交換をさせていました。「男の子との約束の方が先だから、男の子との約束を守る」「自分の夢を実現する二度とないような大きなチャンスだから、マジックショーに行く。男の子には後で謝る。」「男の子に会って謝ってから、マジックショーに遅れていく。」など、生徒たちは様々な考えを発表し合い、仲間の考えから自分の考えをより深めたり、改めたりしていました。自分の心の中の善悪の基準に照らし合わせ、真心を持って行動し、結果に責任を持つとはどういうことなのか、一人一人が考えを深めていました。

授業参観終了後には、学年PTAが行われ、一年間の学年・学級経営のまとめ、学年会計、高校入試や合格発表、卒業式や卒業後についてなどの説明と質疑応答が行われました。年度末の慌ただしい中でしたが、多くの保護者の方々が参加してくれました。ありがとうございました。なお、2学年は3月16日（木）に、1学年は翌17日（金）に授業参観と学年PTAを予定しています。

嶺南の吹奏楽の祭典「サウスウインドコンサート」

2月5日（日）「サウスウインドコンサート」が身延総合文化会館で開催されました。この行事は嶺南地域の吹奏楽に取り組んでいる中学生、高校生、社会人が一堂に集まり、演奏を通じて交流を図り、互いの技術向上を図ることを目的に開催されています。

本校吹奏楽部員は、身延中、早川中、身延高校の吹奏楽部員と一緒に「学園天国」など4曲を演奏しました。コロナのために3年ぶりの開催だったこともあり、音楽関係者や出演者の家族など、たくさんの観客があり、生徒たちは久しぶりの大舞台での演奏を楽しんでいました。



「ジュニア防災マスター育成のための防災教室」に4名が参加



2月23日の天皇誕生日の日に、山梨県庁防災新館で「ジュニア防災マスター育成のための防災教室」が行われ、本校からも2年生4名（佐々木麗さん・遠藤夏奈さん・田中海成さん・仲亀寛人さん）が参加しました。当日は、①災害・防災の基礎、②マイタイムラインを作ってみよう！、③体験・見学（煙体験、地震体験車、展示見学）の学習を通して、災害への対応を想像した上で考え行動することが中学生の災害への備えとして大切であることを学びました。どの活動においても、学校

の「理科」の授業と結び付く内容が多かったため、展示見学では風向計の実物について、甲府地方気象台の職員の方に質問する場面も見られました。閉校式では、参加者一人一人に修了証と記念品が授与されました。この県の取組は、来年度以降も継続し、夏休み中の実施を予定しているそうです。募集が来ましたらお知らせしますので、関心がある人は参加を検討してみてください。

（以上 教頭田邊）

今回の生徒たちの防災教室への主体的な参加は、本校に生徒たちの自主防災組織を立ち上げたこともきっかけになっているように思います。昨年12月には、本校の防災に関わる取り組みを聞いた内船地区にお住まいの木内仁さんが、「自然災害や防災に関わる新聞記事」を集めたスクラップブックを学校に持ってきてくださいました。木内さんは富士市の元消防士で、地域の自然災害や防災に深く関心を持たれ、研究されている方です。校長室前の廊下にスクラップブックを展示しておいたところ、何人かの生徒たちが興味深そうに新聞記事を読んでいた。今後も、中学生が地域の一員として、自然災害や防災についても積極的に学べる機会をつくっていきたいと思います。



↑木内さんのスクラップブック